

市や県ではきまりを作ったり、特別の係をもうけたりして、公害対策を進めています。⑤しかし何
 といつても、わたしたち住民の生活を公害から守るためにもっともたいせつなことは、公害を出
 し、自然の調和をこわしてしまうような産業活動はゆるされない、という考えを持つことではな
 いてでしょうか。

- ア ①の文の終わりてくさる。
 イ ②の文の終わりてくさる。
 ウ ③の文の終わりてくさる。
 エ ④の文の終わりてくさる。

二、次の文章から中心になっている文をみつけ、その番号を□の中に書きなさい。

- ① 詩とは何でしょうか。
 ② 詩というのは、深く感動した心の動き、つまり感動をこぼして表したものです。
 ③ たとえば、あなたが、まっかな夕空を見て美しいと思った感動を、すなおにあなたの言葉で
 表したものが、それが詩なのです。
 ④ そのとき、感動だけ特別にうかんできてるのではなく、いつでも心を動かされることごと、
 ことごとが、いっしょになって表れてくるものなのです。

□

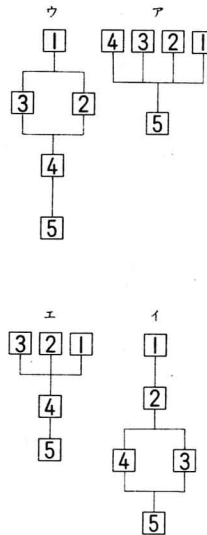
三、次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

- ① ふろに入ったり、プールの水につかったりすると、自分のからだごとでも軽くなったよう
 に感じます。これは、しずんでこようとするとその水が下から押し返そうとする力がはたら
 いたため、これを「水の浮力」といいます。
 ② では、プールや川の中よりも、海の方がよほど軽くなるのはなぜでしょうか。
 ③ 海の水には、塩やそのほかのものがたくさんとけているので、プールや川の水よりも重くな
 っています。ま水にうかなくなったままでも、こい食塩水にうかぶことはみなさんも知っている
 でしょう。
 ④ 中央アジアの地方に、「死海」という湖があります。この湖には、海の水よりもはるかにた
 くさんの塩がとけています。それでここでは、人はしずもうと思ってもなかなかしずみません。
 「死海」では、人はあおむけになつてうきながら、らくらくと本が読めます。
 ⑤ このように、液体は重ければ重いほど、「浮力」が大きくなるものです。プールや川の水に
 くらべて、海の水の浮力が大きいのはこのためです。

1 この文章は、五つの段落に分かれています。読み手に問題を投げかけている段落は何番ですか。
 その番号を□の中に書きなさい。

□

2 この文章の組み立ては、次のどの形になりますか。正しいものを次のア～エの中から一つ選んで
 その記号を□の中に書きなさい。



□

3 この文章は、どんなことについて書いたものですか。一の中からもっとも正しいものを二つ
 選び、その記号を□の中に書きなさい。

- ア 海水には、いろいろなものがとけているということ
 イ 死海では、ねながららくらくと本が読めるということ
 ウ 浮力は、液体の重さとの関係があるということ
 エ 海水は、プールや川の水よりも重いということ

□

四、次の文を、(例)にならって、主語は□でかこみ、述語には—を引きなさい。

(例) 夏の 太陽が ぎらぎらと かがやいています。

- 1 ばくの へやは いつも きたない。
 2 きけんを さとった 新一は へやの 中の 少年を うむを 言わず
 外に 連れ出しました。